

令和2（2020）年度入試

【AO入試Ⅰ（地域貢献人材育成入試）】問題

小 論 文

（生物資源科学部）

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は5ページである。解答用紙は5枚、下書き用紙は2枚である。指示があってから確認し、解答用紙、下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙及び下書き用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

次の問1と問2の両方に解答しなさい。なお、答えは必ず問ごとに指定された解答用紙の所定の欄に記入すること。下書き用紙は裏面も含めて自由に用いて構いません。ただし、下書き用紙も提出すること。

問1

次の文章は、経済学者の宇沢弘文氏が著書「社会的共通資本」で述べている、日本における農業の再生に関する論考の一部分である。これを読んで、下の問1-1と問1-2に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

出典) 宇沢弘文、「社会的共通資本」、岩波新書、2000年

問1-1

下線部(1)や下線部(2)で、著者は農村や農業が若者にとって魅力的でないものになってしまったと述べているが、その背景や理由を本文の記述を踏まえながら具体的に200字以内で述べなさい。

問1-2

下線部(3)は、山陰の地域社会、特に中山間地域の活性化を考える上で解決すべき大きな課題のひとつであるが、どのようにこの課題に取り組むべきか、短期的視点と中長期的視点とに分けてあなたの考えを合計400字以内で述べなさい。

問2 A～Fのデータは全国、あるいは島根県における耕作面積やソバの作付面積、生産、消費に関するものである。これらを元に以下の問2－1から問2－3に答えなさい。

問2－1

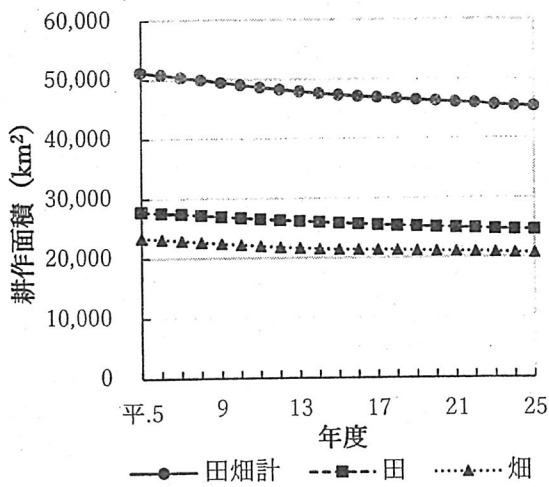
A、Bのデータより読み取れる島根県の農業生産の特徴について、全国と比較して30字以内で簡潔に述べなさい。

問2－2

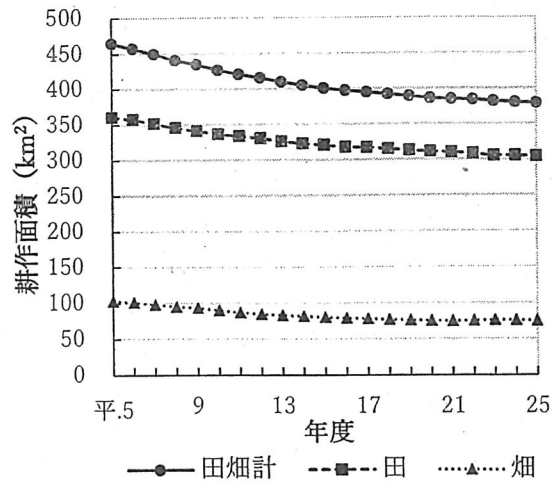
Cのデータより全国におけるソバの作付面積と収穫量の推移について、その特徴を説明しなさい。続いて、ソバの生産状況がそのような特徴を示す主な原因は何であるか、あなたの考えを合計250字以内で述べなさい。

問2－3

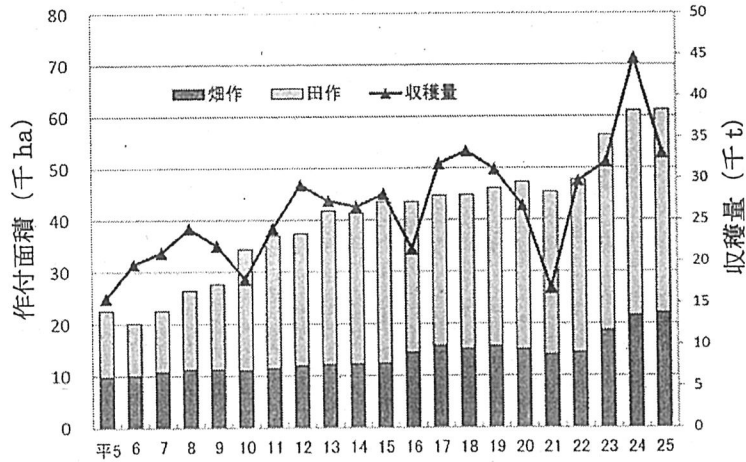
島根県は、全国的に高い知名度を持つ「出雲そば」の発祥地である。このことを踏まえて、現在および今後のソバ生産や「出雲そば」を利用した地域活性化について、提示された資料を参考にしながらあなたの考えを450字以内で述べなさい。



A. 全国における耕作面積の推移

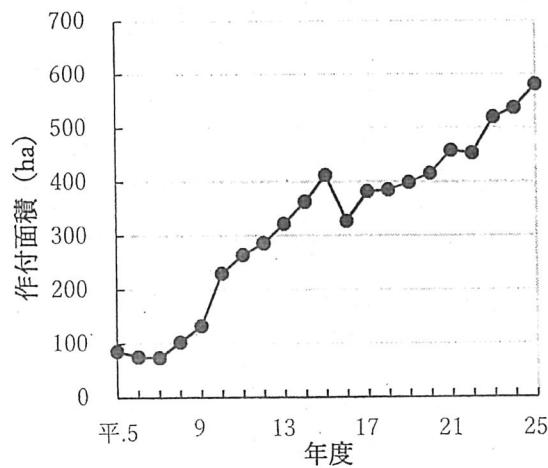


B. 島根県における耕作面積の推移



C. 全国における畑作、田作別ソバの作付面積および収穫量の推移

注・図中の「田作」は、水田を湛水せずに畑として利用し、そこでソバを栽培したことを示す。



D. 島根県におけるソバの作付面積の推移

E. 平成 30 年におけるソバの都道府県別作付面積順位

順位	都道府県	ソバの作付面積(A) (ha)	都道府県 の面積(B) (km ²)	土地面積当たり ソバの作付面積(A/B) (m ²)
1	北海道	24,400	83,424	2,925
2	山形	5,040	9,325	5,405
3	長野	4,250	13,562	3,134
4	福島	3,720	13,784	2,699
5	秋田	3,610	11,638	3,102
6	茨城	3,370	6,097	5,527
7	福井	3,350	4,190	7,995
8	栃木	2,700	6,408	4,213
9	岩手	1,780	15,275	1,165
10	青森	1,640	9,646	1,700
11	新潟	1,330	12,584	1,057
12	鹿児島	1,190	9,187	1,295
13	島根	679	6,708	1,012
14	宮城	671	7,282	921
15	熊本	586	7,409	791

F. 国内におけるソバの需給状況

	国内消費量 (千トン)	国内生産量 (千トン)	自給率 (%)
平成 21 年度	121	17	14
平成 22 年度	121	30	25
平成 23 年度	119	32	27
平成 24 年度	132	45	34
平成 25 年度	141	33	24

出典)

e-Stat 政府統計の総合窓口 <https://www.e-stat.go.jp/> (A, B, D, E)、農林水産省「そば及びなたねをめぐる状況について」(C, F)。いずれも一部を改変して用いた。